



第1回三原臨空商工会 事業評価委員会 議事録

1. 招集通知日 令和7年4月2日（水）
2. 開催月日 令和7年4月15日（火）午後1時30分～午後2時40分
3. 開催場所 三原臨空商工会2階会議室
4. 出席者 委員； 9名
①三原市商工振興課課長 恵谷 元晴、②中小企業診断士 伊豆田 功、
③日本政策金融公庫尾道支店長 田村 一寿、④広島県商工会連合会経営支援
推進課 主任 樫 生矩、⑤三原臨空商工会長 増田 洋一、
⑥副会長 平畑 隆浩、⑦副会長 今井 宏明、⑧専務理事 津田 豊三、
⑨理事 平田 裕二
事務局； ①事務局長 中元 一登、②課長 藤井 忠昭、③経営指導員
大元 三幸、④経営指導員 今富 裕太、
⑤経営指導員 幸徳 冨佳、

5. 経過など

- 1) 委員長あいさつ
- 2) 伴走型小規模事業者支援推進事業の事業報告について
- 3) 各委員からのコメント及びアドバイス
- 4) 令和7年度 事業見直し（変更）点など
- 5) 副委員長あいさつ（閉会）

○経営発達支援事業の報告ならびに自己評価、更に次年度 経営発達支援計画の見直し
について

【議案の経過要領及び議決の結果】

定刻となり、司会；事務局長 中元一登は、第1回評価委員会を開催すると宣し、会長 増田洋一氏に挨拶を頂いた。増田会長は挨拶を述べたのち、今回の評価委員会の委員長へは、令和6年5月岡野専務が退任し委員長が不在となることから、津田専務を選任しスムーズな委員会の開催になるよう提案があった。出席者委員は全員が賛同し、津田専務が委員長に選任された。続いて、出席者全員に自己紹介を促し、全員が自己紹介を行い、司会の中元事務局長は、津田委員長に進行を委ねた。

【津田委員長】；出席委員に対し、令和6年度の事業計画に基づき事業進捗状況の報告を行う場として、また、次年度以降の有意義で効果的の事業になるよう忌憚のないご意見を頂き充実した会議にしたいと述べ、経営発達支援事業の事業報告についての説明を事務局に求めた。

【事務局】（藤井課長 法定経営指導員）；

小規模支援法等に基づく経営発達支援事業の位置づけ、昨年度から5年間行政（三原市）との共同申請の基での経営発達支援計画についての主旨・概略等の説明を行い、

各事業の詳細について配布資料①②に基づき経営指導員；大元三幸から説明がなされた。

【津田委員長】；続いて、残る資料についても事務局へ説明を求めた。

【事務局】（今富裕太指導員）；資料③の令和6年 景気動向調査についてを行った。

【事務局】（大元指導員）；資料④の令和6年 日経MJのヒット商品ならびに、家計動向調査の説明を行った。

【津田委員長】；一通りの説明がなされたので、出席委員へ質問や意見がないかと求めた。

伊豆田（外部専門家）委員には、最後の統括を行うよう付け加えた。

【平畑委員】；事業計画策定後のフォローとして、13者の売上営業利益増加の具体的な事業者のイメージや内容を教えてもらいたい。

【藤井課長他】；持続化補助金等の活用、創業者支援などが中心であり、事業者の計画遂行にあたり、目標管理、係数管理等しっかり伴走支援した効果によるものであることを強調した。
また、余談ではあるが、補助金活用にあたっては、必要な時期に対して、補助金採択後の事業実施とタイムラグが発生すること、立替払い後に補助額の精算の流れとなることから、資金の手当が必要であることが付け加えられた。

【恵谷委員】；三原臨空商工会が運営するwebサイト「せとなか百貨店」の中で、木製の名刺入れを見つけた。知人にプレゼントしたくなるような魅力的な商品を取り扱われているようで、今後の運営も期待している、と述べた。

【田村委員】；目標数値に沿った良い評価が出ている点について、5年間の長期（経営発達支援）計画を実行するうえでの乖離はないか、という質問があった。
事務局から、今回の評価委員会を経て、計画の見直しを反映しているという主旨の説明があった。

【平畑委員】；建設業営む事業者として、国の方針とは少し異なる県の対応に苦慮している。
一例として、構造物をすべて同様な基準で造ることは、コストの上昇につながるため、構造計算上基準をクリアする場合は、建築確認をしない特例制度を活用できるよう要望を行って欲しい。

【平田委員】；販売力向上セミナー等の少数参加者について、家族経営を中心とする小規模事業者にとっては、目の前の業務や出店を任せてセミナー参加することが難しいのでやむを得ない。自分自身も参加をしたいが参加できない事業者へフォローを行うことで出席にカウントすることはできないでしょうか？。

また、出席目標数をクリアする提案として、商業部会等での告知を行っていきたい。

【樺委員】；県内の商工会からの事業報告について、全国連からは以下の点が重点的に考える必要がある。①事業実施に対する費用対効果、②事業の目的と結果・効果、③前年度の実施の反省を踏まえた計画申請といったことを特に意識して事業を行って欲しいというアドバイスが述べられた。

【今井委員】；昨年度、東京ビッグサイトの出展事業を現地視察したことも含めて、商談件数（ ）件とは、期待よりも低いと感じる。2,000社以上の出展で、分かりやすいブース作りが必要だという印象を受けた。次年度は、自社が出展したい、と述べた。

【増田委員】；約250万円の東京出展について、費用対効果ということからすると低い。
また、せとなか百貨店(webサイト)開設費に、要した費用についても、まだまだ改善・検討の余地があることから、この場の委員会の方々から良い提案等が頂ければ頂きたい。

【津田委員長】；外部有識者の伊豆田委員へ今年度の経営発達支援事業の総括を求めた。

【伊豆田 外部有識者】；

A評価が多い中で、職員資質向上 事務局内の情報の共有では50%と少低い数字が少々気になった。

5年間の経営発達支援計画の中で3年が過ぎ、PDCAサイクルを回し、一定の効果が出ていることに期待がもてる。

余談だが、アメリカ トランプ大統領の発言による(小規模)事業者自身ではどうすることも出来ないのも、次の2つの変化に対応することこそが重要であると述べた。

①人手不足、②多様性

この2つを解決出来るとすれば、AI、DXなどの活用による効率化が避けては通れない。経営指導員や職員の皆様も大変だと思うが、より満足度の高い会員ニーズに個別に必要な支援の提供を行って欲しい。

【津田委員長】；その他の資料として提出されている令和7年度見直し案等について、事務局に説明を求めた。

【大元指導員】；見直し(案)として、令和7年度の事業計画作成支援事業では、事業承継を見据えた支援を実施する点、さらに、(東京)出展事業に際しては、出展事業者の規模や商品・サービスを充分に見極めながら最適な見本市・展示会を選別する点。

また、令和7年度事業全体のスケジュール案の説明を行った。

【津田委員長】；令和6年度経営発達支援事業ならびに、令和7年度見直し案等について、事務局(案)でよいかと議場に諮ったところ、満場一致で可決した。

閉会にあたり副委員長の恵谷委員からあいさつを行った。

【恵谷副委員長】；閉会の挨拶として、今年度 三原市商業振興課の3つの重点事業を紹介。

- ①産業振興として、短期的な取り組みとして、沼田西工業用地(2～3ヘクタール)大規模用地の確保として、全国のニーズ調査から始めて、適地調査を行う。
- ②事業承継対策として、web ページ(relay)にて、承継希望店舗等を実名で公開しても良いという事業者を探すので、皆様のご協力をお願いしたい。
- ③経済対策として昨年実施した pay pay 事業も検討して参りますので、宜しくお願いします、と締めくくった。

会議終了

時に14時40分

今井

東京出展事業の商談件数が低いように思います。当方の参加を希望します。